

## 男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q 6 4 警視庁警察職員約4万6千人のうち、女性警察官は約1千人ほどと聞きますが、女性が職務質問の分野で、活躍されてる状況を教えていただきたい。

A 6 4 地域警察官は、地域の安全・安心を守り市民に頼りにされる存在で、交番勤務やパトカー勤務を通じて、最も身近な存在として活動します。パトロールや防犯活動、職務質問による犯罪検挙、事件・事故発生時の初動警察活動のほか、地理案内や遺失届・拾得物の受理、相談対応など、地域の安全・安心に大きな役割を果たしています。

職務質問分野で女性の感性を武器に警視庁地域部地域指導課の職務質問指導班で活躍の石丸百合子氏に活動状況を語って頂きました。



### 「女性の感性を武器に ～職務質問」

警視庁地域部地域指導課 職務質問指導班

石丸 百合子氏

『職務質問』という言葉聞いて思い浮かぶのは、男性警察官の姿ではないでしょうか。

私は現在、地域部地域指導課職務質問指導班で、職務質問指導者の一人として、各警察署やパトカーで専門的に職務質問をする自動車警ら隊等へ派遣され、職務質問の指導をしています。私がこの職務



質問の仕事をするようになったのは、自動車警ら隊に異動したことからです。

それまで地域部門での勤務経験がなかったため『職質のプロ』への異動は青天の霹靂でした。現場に出ると、「ブス!」「クソババア!」などと罵倒されるのは日常茶飯事で、男性と同じことをしても、女ということになめられ、悔しい思いばかりしていました。そこで、強がって男性警察官と張り合うのではなく、自分自身が持っている女性の特性を活かした職務質問をやってみようと視点を変えてみました。

女性特有の会話能力、洞察力、きめ細やかな対応を武器に職務質問に取り組んだところ、自ら犯罪を自供したり、素直に所持品検査に応じる者が増えるなど、女性警察官でも『職務質問』が



できることを示すことができました。今では現場の男性警察官から頼りにされることも増え、大変やりがいを感じています。男女の特性を尊重しつつ、互いの能力を発揮することで、一人でも多くの犯罪者を検挙することを目標に、日々邁進しています。職務質問は既に発生した犯罪の犯人検挙だけではなく、未然に犯罪の発生を防止できる警察官の武器と言っても過言ではありません。この職務質問の大切さを伝え、自ら行動する逞しい警察官を一人でも多く育てることが私の仕事です。

現在、当庁だけではなく、他県警察の女性警察官にも、自分の経験を活かした職務質問の指導をする場を頂いています。全国の女性警察官で情報交換のネットワークを作り、警察組織全体を盛り上げていければと思っています。